

熊本県玉名市の「子どもの第三の居場所」学習・生活支援モデルにおける子どもへの体験機会の提供

2023 年度事業報告書

社会福法人玉医会

Supported by
 日本
財団
THE NIPPON
FOUNDATION

Ⅰ 事業計画

(1) 事業目的

「子ども第三の居場所」拠点に通う子ども達により豊かな体験機会を提供し、子ども達の「生き抜く力」を育む。

不登校・いじめ・発達特性・貧困・家庭の養育能力不足等により学校・自宅以外に『第三の居場所』を必要とする子どもたちが、ゆるやかに地域と関わり、ゆっくりと人生への意欲を自ら育てながら『次への一步』へつながることを目指す。

地域内にある企業・団体、人といった社会資源を活用することで、第三の居場所への地域内での理解を深めることにもつなげる。

(2) 目標

- 年間を通した野菜づくり体験の実施
- 熊本市内への体験バス旅行の実施

(3) 事業内容

1.年間を通した野菜づくり体験の実施

(1) 時期：2023年7月～2024年6月（通年で実施）

(2) 目的及び学びの内容：地域内で野菜づくりをしている方を講師に招き、プランター栽培を中心に、拠点敷地内で年間を通した野菜づくりを行う。土づくりや種まき等の専門的な知識が必要な部分については講師に来ていただき教えてもらいながら作業に取り組む。それ以外の日々の水やり等については、でいんぐるの子どもたちとスタッフで実施し、その成長を年間を通して観察、体験する。収穫できた野菜については、拠点内で「収穫祭」として児童全員で味わう予定。

2.熊本市内への体験バス旅行の実施

(1) 時期：2023年12月頃（冬休み期間中に実施）

(2) 目的及び学びの内容：学校の見学旅行や修学旅行に参加できていない児童が多いため、安心できる環境の中で普段できないような経験を積む機会とするために実施する。行先は、熊本城、熊本博物館を予定。熊本地震から復興した熊本城天守閣を見学し、その後、博物館にて郷土の歴史等について学習する。

2 事業実績

1.年間を通した野菜づくり体験の実施

(1) 時期：2023年7月～2024年6月（通年）

(2) 学びの内容：地域内で野菜づくりをしている方を講師に招き、プランター栽培を中心に、拠点敷地内で年間を通した野菜づくりを行った。土づくりや種まき等の専門的な知識が必要な部分については講師に来ていただき教えてもらいながら作業に取り組んだ。いちごやゴーヤーなどの季節の野菜の他、ハーブなども栽培した。

当初1年間を通して来てくださる予定だった講師が事情変更により、R6.2月～来ていただくことが困難になってしまったが、それ以降も教えていただいたことを基に、拠点スタッフを中心に管理を行った。日々の水やり等については、でいぐるの子どもたちとスタッフで実施し、その成長を年間を通して観察、体験することができた。収穫できた野菜については、拠点内の昼食に活用し、みんなで味わうことができた。

【活動の様子】





2.熊本市内への体験バス旅行の実施

(1) 時期：2023年12月27日

(2) 学びの内容：学校の見学旅行や修学旅行に参加できていない児童が多いため、安心できる環境の中で普段できないような経験を積む機会とするために実施した。行先は、熊本城、熊本博物館及び城彩苑。はじめに熊本博物館にて郷土の歴史等について学びを深め、その後、熊本地震から復興した熊本城天守閣を見学した。



3 事業総括

(1) 事業の成果

●年間を通した野菜づくり体験の実施

自分たちで苗から野菜や果物をつくる経験を通し、収穫する喜びや採れた野菜を食べる喜びを感じることができた。

また、育てたハーブなどを用いたミニブーケ作りやドライフラワー作成、ミニ寄せ植えの作成などを開催することで、不登校状況にある児童が拠点に通所できたこともあった。



●熊本市内への体験バス旅行の実施

不登校状況にある児童が多いため、普段の学校生活の中で通常であれば経験するような行事に参加したことのない児童も多く、今回の体験バス旅行に参加できたことで、児童の経験を増やすことができた。また、徒歩移動かつ長時間の旅行であったが、誰一人途中でリタイアすることなく参加できたことで、各々の自信につながった。

(2) 今後の課題

●年間を通した野菜づくり体験の実施

年度途中で講師の支援が受けられなくなるという事態が発生した。野菜づくりのノウハウを持った講師がいない中で、事業を継続することとなり、スタッフの負担が大きくなってしまった。地域の中で野菜づくりを教えてくださる方を複数名探しておく必要があった。

●熊本市内への体験バス旅行の実施

旅行への参加を予定していたものの、旅行当日になって緊張感から参加を見送った児童がいた。本人の意志を尊重したものの、声掛けの仕方や本人が安心して参加できるような工夫（旅行のしおりなど活動の見通しがもてるもの等）をする必要があった。